

2015.3.23

小原院長の“いま一番気になる人・仕事” スペシャル対談

富田祥史×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、山元式新頭鍼療法 YNSA を始め、東洋医学、西洋医学、代替療法の技術を駆使して、西洋医学では治らないとされる難病を改善し続けている富田先生をお招きして、統合医療の可能性について語り合っていました。(2015年3月21日(土) 小原整骨院にて)

「患者さんから多くのことを教えてもらった…だから少しでも社会に貢献したい」

ゲスト紹介

■ 富田祥史 (あけぼの漢方鍼灸院 院長)

1975年 大阪府出身。大学卒業後、IT企業に勤務の傍ら実家の漢方薬局に勤務。鍼灸部門の立ち上げに伴い退職。関西中医鍼灸研究会の招輝先生に師事。神戸東洋医療学院卒、在学中より漢方鍼灸会理事長、田布施嘉秋先生に師事。卒後、特定医療法人の難病専門代替療法部門の責任者を10年務める。2009年山元先生の直弟子加藤直哉医師のYNSA指導を経て、日本人鍼灸師として初めて山元敏勝医師の宮崎YNSAセミナーを修了。2013年山元会長、加藤副会長と共にYNSA学会を設立。YNSA学会、評議員、事務局長、関西支部長、公認インストラクター。



■ 小原忠士 (小原整骨院 院長)



1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。

■ 本山鶴福（小原整骨院 鍼灸師）



1959年 倉敷市出身。小原整骨院の鍼灸師として活躍する傍ら、鍼灸を中心に東洋医学の技術の習得に余念がない根っからの治療家。その対象は古典鍼灸から漢方など広く深く、また自身の学んできた鍼灸の技術を惜しみもなく後輩スタッフに教えるなど、小原整骨院になくってはならない存在として、院長やスタッフからの信頼も厚い。

■ 司会進行 俣野浩志（株式会社パッション）

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士（MBA：香川大学大学院地域マネジメント研究科）。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

西洋医学では改善しづらい難病に効果がある YNSA とは？

司会：今回は山元式新頭鍼療法 YNSA の第一人者として、自律神経失調症などの難病の改善に取り組まれている富田祥史先生と、小原整骨院の鍼灸師である本山先生を交えての座談会となりましたが…まずは今回の座談会が実現した経緯をお聞かせください。

小原：昨年11月に小原整骨院で富田先生のセミナーを開催して頂いたのですが、富田先生との繋がりには本山先生の紹介です。本山先生が YNSA の勉強会に参加された時、富田先生の博学に衝撃を受けたとの事。人柄が素晴らしく、説明もわかりやすいので、是非、整骨院のスタッフにもセミナーを受講させたいとの思いから、打診させて頂きました。

富田：そうですね、本山先生から「岡山に来て下さいよー」と、あまりにも熱心にお誘いされましたので、来岡させて頂くことになりました（笑）。

本山：富田先生は、惜しみなく習得されている知識と技術を伝えて下さるので、何でもお

尋ねしやすいです。私も誰にも負けたくないとの思いで勉強していますが、富田先生の知識と技術には脱帽します。

小原：実は、この対談の後も2日間にわたって「山元式新頭鍼療法 YNSA 岡山セミナー」をここで開催するんです。昨年11月に開催したセミナーで学んだ技術のブラッシュアップを目的にしたもので、かなり実践的なセミナーですよ。

富田：そうですね。YNSAの技術は座学だけでは決して身につけませんから…と言ってもセミナーで体験して頂いても技術をマスターするのは無理です。やはり理論も深いし、技術も相当レベルのものが求められますから。ただ、何割かの技術の取っ掛かりを伝えることはできます。それをキッカケにYNSAに関心を持っていただけると嬉しいです。

本山：いやそれは鍼灸師にとっては、喉から手が出るくらい欲しい技術ですよ。関心を持つというレベルのものではないですね。学べる機会が少ない貴重な技術ですからね。

※YNSA：山元式新頭針療法 (Ymamoto New Scalp Acupuncture)。

宮崎県の医師「山元敏勝」先生によって考案されたこの技術で、日本ではあまり知られていないが、世界ではすでに数千人の医師が実践する非常に有名な治療法。

脳梗塞や脳出血、麻痺などの中枢性疾患、腰痛、肩こり、膝の痛み、癌の痛みをはじめ、あらゆる痛みやしびれ、めまい、耳鳴りなどの神経疾患に非常に有効なことが認められている。その優れた効果は世界中で認められ、ドイツでは整形外科や麻酔科、内科の医師が実践し、ブラジルでは山元先生の名前を冠した病院がブラジル政府の国費によって建てられているほどである。またドイツやブラジル、ハンガリーでは健康保険の適応になっている。



小原：そうですね。通常の鍼灸の技術とは理論体系も違うし、鍼灸師であっても触れる機会は少ないでしょうね。

富田：確かに、通常の鍼灸治療においては経絡、経穴（ツボ）を使った治療と言うイメージを皆さんお持ちだと思いますが、YNSAでは経絡や経穴を使うことがないですからね。

本山：脳点という頭のツボが全身に対応していることが…痛みなど脳が感じているだけなので、神経に別の刺激を与えて脳を騙すというか…なんとなく理屈では理解できるのですが、いや、実際体験すると凄いですね。

富田：ええ。YNSAは理論もさることながら、対応する疾患がすごいんですよ。頭部のツボ、反射区と言うんですが、これが全身の疾患に対応しているんです。麻痺などの肢体不自由だけでなく、癌性疼痛や整形外科的な肩こり、首、腰、膝などの痛み、目、鼻、口などの各器官の様々な感覚異常、痛み、しびれ、耳鳴りとかね。多くの症状を改善できる可能性が有るんです。なかでも難治性とされるパーキンソン病、片麻痺や、痛み、耳鳴り、めまい…どこにいつても治らない腰痛などに優れた効果がありますよ。

小原：西洋医学では改善しづらい症状ばかりですよ。まさに難病専門ですね。

富田：難病との関わりが長くて…何とかしたいという思いが強いですね。そのために洋の東西を問わず、効果が認められるものを積極的に学び習得しました。ですから伝統鍼灸治療、自律神経免疫療法、温熱治療の代替・補完療法などを融合した施術、統合医療を行っています。

ある癌患者さんとの関わりの中で徹底的に打ちのめされた…僕は何もできていなかったんだと気付かされた…そこから本気で勉強を始めた！

小原：では、難病との関わりとか…そのあたりのところから伺って参りましょうか。富田先生が鍼灸の道に進まれたキッカケとはなんだったのでしょうか。

富田：母の影響なんですよ、この道に踏み込んだのは。実家が漢方薬局をやっている。母が漢方薬を使ってなかなか治らない病気の患者さんを治していたんです。それを見ていて、漢方と相性の良い鍼灸を組み合わせたら、さらに良いのでは！と興味がわいたんですね。

本山：では幼少期から東洋医学に触れることができる環境で育ったんですね。

富田：ええ、でも全く畑違いのところに就職したんですけど…もともと IT 企業で働いていたんです。意外でしょう。しかし家業といい、なぜかご縁があって、この世界に入ることになったんです。母も体調が悪かったこともあり、漢方薬局を手伝うようになって、鍼灸学校に行きました。それから関西中医鍼灸研究会の招輝先生にご指導を受けながら、全国組織の鍼灸の会の理事長をされている有名な先生の内弟子に入ったんです。その後、招輝先生の紹介で、ある医療法人の難病専門外来の立ち上げに関わって…その医療法人が新潟大学の安保教授と福田医師の自律神経免疫療法を使った難病治療の外来部門を立ち上げたいということで、炭酸泉を使った温熱療法をすることになりました。それで癌患者さんや脳神経疾患患者さんなどの難病を専門に診ることになったんです。そこでは炭酸泉、温熱療法、自律神経免疫療法を中心に癌患者に治療を施していました。

小原：なるほど、難病専門外来ですか。それで多くの難病患者を診る機会があったんですね。しかし、難病という回復が見込めないばかりか、治療薬がない、治療法すら発見されていないような病ですよ。そもそも発病に至るメカニズムすら解明されていない…。



本山：ですよね。患者さんが回復してくれば、それは嬉しいでしょうけど…難病ですからね、医療に関わるものとして精神的に辛いことが多かったんじゃないんですか。

富田：おっしゃられる通りです。やはり患者さんは、藁をもすがる思いで新しい治療法に期待して来られます。でもどんどん亡くなっていった…。どこの病院からも見放された末

株式会社エミリンク（小原整骨院）

期の癌患者さんばかりが送られてくるんです。400名くらい来られたんですが、300名以上の患者さんが亡くなられた。治療をやってもやっても亡くなられて行って…。

小原：それは…辛いですね。

富田：28か29歳くらいの時でしたが、もうどうにもやりきれなくなることがあったんです。私には忘れられない症例もいくつもいくつもあるんですが、僕の中で決定的に打ちのめされたことがあって。

ある時、精巣癌の患者さんが来られたんですが、ほんとにこれは僕の懺悔なんですけれども…。その患者さんは少し転移が始まっていたが、本人は切りたくない、手術したくないと言うことで温熱治療をしていましたが、今思えば精巣癌は唯一抗がん剤が効く癌なので、抗がん剤治療を絶対やるべきだった。当時の僕にはその知識はあったのですが、ご本人が抗がん剤治療を断固拒否されていたことと、ドクターが自律神経免疫療法でご本人がやりたいと言っているんだからということで、やってあげなさいと…しかし病状はどんどん悪くなる。そういうことで治療を継続していたら、ある日救急車で運んでこられたんです。当時の僕の治療でも癌の痛みは軽減できていたので、搬送後すぐ処置室で治療しました。痛みを改善できたことで、少しは普段の生活も楽になったと思います…。搬送されて入院になったのですが、有る時CT室に運ばれていて、その部屋の前の廊下に彼女が立っていて、患者さん本人はモルヒネが効いていて意識を失っていました。ただ、彼女が呆然と立っていたんです。僕もちょっと大丈夫かなと心配になって、お水を差し出しながら「大丈夫、元気出して」と渡しながら声をかけたとなん、大号泣されて…その方がひざから崩れ落ちて。

後ろ頭をないきなり殴られたようなショックを受けました。その時に悟ったんです。僕はできるような気になっていたが、この人にもこの人の大切な人にも、何もできていなかったんだと。これが僕の原体験です。

結局その方も旅立たれて…。風のうわさにその彼女は鍼灸師になったと聞きました。

この体験が自分を変えました。この件以降8年間は、好きなゲームもやらず映画も見なくなり、週末も一切遊ばなくなって…娯楽もやめてしまいました。その時間を使って、あらゆる治療技術の勉強会に参加したり、患者会に参加したりして、本気で勉強したんです。自分でも驚くくらいに。

小原：若い時に、そんな体験を…。

本山：医療に携わっていると、人の死というものからは目を背けることはできないですから…しかしご本人も辛いだろうが、残された家族や周りの方の気持ちも…。

富田：いろんな癌患者さんを診させて頂いた体験から、いろんなことを教えて頂きました。でも、やっぱり亡くなられた患者さんに対しては何もできなかったという思いが強く残っています…300名以上の患者さんが旅立たれていった、その贖罪だという意識もあります。それで本気で勉強して一人でも助けたいと思うようになりました。

小原：そういう思いが富田先生を突き動かしているのですね。リアルですね。それで身につけて有効と感じる技術や治療法などいろいろなものがあるわけですね。

富田：そうですね。井穴刺絡（せいけつしらく）であるとか、お灸、YNSA、経絡治療…

食事療法なども…。私の治療の原点は当時の癌治療から始まっているのです。

小原：今だったら癌患者さんもある程度は救えるというか、癌患者さんの助けになれるかもしれないですね。

富田：当時よりは僕の技術も知識もあがっているので、確かに、今だったらある程度は…しかし確実に生活の質は改善できると思います。

本山：これほどの症例を診てこられたからこそ、難病治療の困難さが身に沁みてらっしゃる。言葉の端々にそれを感じます。

富田：僕は、癌という病気を魔法のように無くすのは、今の所地球上には存在しないと思っています。

健康食品もいろいろ見てきましたが、中にはそれで良くなる患者さんも居ることもありますが、ほとんどは良くなることはありません。これをしたら絶対この癌には大丈夫というものは、まず信用できないし、ありえないですね。ほとんどの健康食品は1症例か2症例で良い結果が出ていて、たまたま、その方が良くなったと言うレベルです。お勧めできるものというのは確かにありますが、400症例も診ていると、そんなに簡単に上手くいくなんで無いことが判ってくるのです。

小原：確かにそうですね。メディアでの取り上げられ方も問題だったりしますよね。「これだけ飲めば効く、予防できる」とか。でも400症例診てこられた富田先生がお勧めできるものもあるんですね。

富田：今、僕がお勧めできるとしたら高濃度ビタミンCの点滴と舞茸エキス、手術と分子標的薬の抗がん剤はお勧めできるかもしれない。

本山：高濃度ビタミンCの点滴はやってくれるところはあるのですか。

富田：最近ちらほらできるところが出てきています。関東では。関西でもあるようですが、まだまだ普及していません、これからですね。

僕は鍼灸師ですが、鍼、漢方だけで癌を消すのは不可能ではないが確率は低いと思っています。癌は現状維持か生活の質をちょっと上げていくくらいを目標に頑張ろうと…。癌とは共存を目標にするべきではないかと。消すことは難しいですから、癌を敵視しないという意識の方が良い結果をもたらすのではないかと考えています。もちろん手術で回復できるのであれば手術をするべきですし、その後の予防という面で東洋医学を組み合わせる生活改善をすることも必要です。

抗がん剤も効くこともあります。肺癌や乳癌の方にはイレッサやハーセプチンなど分子標的薬が効く場合もあります。分子標的薬、癌細胞の表面にある特定の物質を狙い撃ちにして、直接叩く薬ですね。これに関しては、僕は肯定的に考えています。それほど副作用はないですし。ただ、通常の抗がん剤は、分裂の早い癌細胞だけではなく、正常細胞を軒並み全て叩くので、強い副作用があり、副作用で亡くなる方も多くいらっしゃいます。従来型の抗癌剤は、得られるメリット（癌の縮小）が少ない割にデメリット（強い副作用）が多すぎるので、精巣癌や小児の白血病などのある特定の癌以外では、私は抗癌剤治療には、あまり意義を感じません。得られるベネフィット（恩恵）の割に、デメリット（副作用）が大きすぎると思います。

小原：なるほど、症状の進行具合に合わせて、一番メリットのある治療法を選択するべきということですね。

富田：そうです。患者さんも諦めてはダメなんです。確かに辛いでしょうが…。例えば、癌サバイバーの方は意識が変化しているのをものすごく感じるんです。「何で生かされているのか」「何で生まれてきたのか」「自分は何で癌になったのか」「自分はどう生きるべきか」人の生の根源的なものを内省されると、快方に向かったりすることがあります。

本山：それは良く聞く話ですね。自分は一度死んだんだって、これからの人生は与えられた人生なので人のために尽くしたいとか…。

小原：ところで、富田先生が考えられている難病に対する有効な治療法とはなんですか。



富田：そうですね。有効なものは、炭酸泉、山元式新頭鍼療法 YNSA、井穴刺絡…。世間一般で見たときと自分の実感とは違うと思うのですが、一般的に整骨院や鍼灸院で見ることの多い整形外科疾患の治療と言う立場だと炭酸泉（高濃度人工炭酸泉温浴）、を使用する温熱療法は副作用のなさや、体質改善の効果から見ても、1 位になるような素晴らしい治療法ですね。簡便だし、何も痛みもない上、血流亢進作用

に優れていて確実に体を変化させるので。でも、自分が専門的に診ている脳神経疾患というくくりで見ると 1 番は YNSA、2 番は M-TEST（経絡テスト）、その次に炭酸泉、2 番目に炭酸泉でも良いかと思えますけど…どちらかといえば、YNSA、経絡治療、井穴刺絡があって、それを補うものとして炭酸泉があるという考え方ですね。

小原：炭酸泉はサブで使うということですかね。

富田：はい、主役では…脳神経疾患の治療にも良いんですが、それだけでは難しいのです。もちろん、治癒が早くなったり、痛みが取れたりとか、拘縮が大幅に改善するので、治療効果としてプラスはありますけど。それだけだと脳の損傷した部位に直接的に働きかけるものではないので。しかしアトピー性皮膚炎やリウマチに関しては炭酸性でかなり良くなりますね。

本山：ほう！それは何故ですか。体が火照ると余計痒くなるように思いますが…。

富田：理由は、かなり専門的になりますけど…。炭酸泉に 30 分入ると熱ショックタンパク質のひとつである Hsp70 というものが体内に発現されるんです。これは細胞が熱などのストレスにさらされた際、細胞を保護するタンパク質で炭酸泉での温浴により体内に増える。Hsp70 は抗炎症作用を持っていて傷を修復してくれます。その次にコラーゲンの生成を促進してくれる Hsp47 が発現されます。これも熱ショックタンパク質ですね。それ

によって生成されるのが体内コラーゲン。コラーゲンは皮膚や骨などを形成する細胞の細胞外基質の主成分ですね。これらが遺伝子の壊れている部分を細胞レベルで修復してくれます。この3つですね。遺伝子レベルでもそうなんですけど、免疫の抗原提示能力（自己と非自己を見分ける能力）というものも上げてくれるので、例えば、体内の免疫系の酵素というのは、働くのに最適な温度があって、だいたい37.5度…37度前後ですね。直腸温で。この温度だと免疫系の酵素がしっかりと働くのですが、温度が低いと自己と非自己を見分ける能力が落ちるんです。

小原：そこで体温を上げる必要がでてくるわけですね。

富田：そうなんです。アトピー性皮膚炎の患者さんって、塗り薬にステロイドを使いますよね。軽い患者さんにはワセリンも使いますが、ほとんどの患者さんにステロイドが処方されているはず。このステロイドは交感神経を刺激して血流障害を招いたり顆粒球を増やしたりするので体温が落ちます。なので体温を上げて免疫系の酵素を働かせるというのがひとつの考え方なんです。

小原：ステロイド使っている患者さんは炭酸泉をどんどんやったほうが良いですね。

富田：毒出し、デトックスもできますからね。

本山：毒出しにもなるんですか。

富田：コラーゲンの合成を促進するので、再生、皮膚再生とか皮下再生の働きにも貢献しますからね。新陳代謝を促進しているようなものです。コラーゲン補正ができるから高い効果が見込めますよ。汗で毛穴に詰まった老廃物や酸化脂質などを洗い流すこともできますしね。

ちょっと、こういう話を語りだすと僕も止まらないので…付き合ってくださいね（笑）。ところで、なんでアトピー性皮膚炎になるかという話もあるんですが。アトピー性皮膚炎の原因というのは、リーキーガットシンドローム（腸管壁浸漏症候群）といって腸壁に細かい傷がついていると、そこから未消化のタンパク質が毛細血管内に入ってくることで起こるんです。そうすると。毛細血管内の未消化のタンパク質、グルテンとかを異物だと認識しだす。

タンパク質はもちろん体の中にいっぱいありますから、免疫系の抗原提示能力がだんだん弱くなって自分の体を攻撃し始めます。これは特に食べ物の害ですね。食べ物を食べて未消化のタンパク質が血管内に出てしまうことによって、免疫系が異常興奮して自分の皮膚を攻撃しだす。これが関節に出るとリウマチなんですけどね。これが、自己免疫疾患なのです。

それに関わるのが、胸腺免疫と腸管免疫という免疫です。腸管免疫はアメーバとか原始生物のときからある原始免疫なので、自己と非自己の認識能力が低い。胸腺免疫は生物が地上に上がったときにできたウイルスに対抗する免疫で、細かい細胞を認識させるための免疫なんです。アトピー性皮膚炎や膠原病の人はこのバランスが悪くなって発症する。このバランスを一定に保つのが大切だと考えられています。

胸腺免疫というのはストレスでも減るし、ステロイドでも減る。そうすると腸管免疫の割合が増えるのですが、腸管免疫というのはさっきも言ったように、自己と非自己を見分けるが非常に能力が低い。なので自分の体を攻撃してしまう。炭酸泉は胸腺免疫を改善する可能性があるから、血流変わりますからね。そうすると腸管免疫と胸腺免疫のバランス

も改善されるんです。

リウマチやアトピー性皮膚炎など自己免疫疾患は西洋医学的には免疫の異常興奮だと解釈されるが、僕は逆で、免疫力の低下だと思っています。胸腺免疫が低下することによって免疫バランスが崩れて発症している。

小原：そういう話って、あまり言われていないですよ。

富田：ええ、欧米では研究が進んでいますが、まだ仮説ですからね。アメリカでは一般にも知られてきていますね…。

本山：炭酸泉以外で胸腺へのアプローチというのはあるのですか。

富田：胸腺免疫へのアプローチにはお灸もありますね。井穴刺絡とお灸を組み合わせるなど。

リーキーガットシンドロームが原因だと考えると、断食や絶食はアトピー性皮膚炎などには有効ですよ。腸内の傷が断食で修復する期間を得られるので。それに食べ物を選ぶことも大切です。トランス脂肪酸をやめるなど。

小原：なるほど。ところで富田先生、認知症をなんとかしたいんですが。

富田：それなら、YNSA と三焦療法というのがあります、認知症に良いとされていますよ。他にも最近では、質の良いココナッツオイルを食べるとかなり改善されます。アルツハイマーにも良いと言われますね。それからケトン食、グルテンフリーが流行っていますよね。食事に関して言えば、癌だと食事療法、少食療法が良いですね。

日本鍼灸の素晴らしい技術を世界に広めたい！世界から鍼灸は求められているので！

小原：富田先生は今後どうしていきたいですか。夢というか目標…ではなくてもう使命かもしれません。

富田：まさしく使命という感じですね！今後は急性期で麻痺になった患者さん、自分は難病治療が専門だったので、西洋医学で手が届かない患者さんが絶対いると思うので、そういった患者さんに対して、鍼灸ならではの…東洋医学ならではのトリートメント主体の手法や技術で貢献したいと考えています。

小原：ほんとトリートメント主体でいきたいですね。

富田：そうですね。できれば。患者さんへの体の負担も少ないですしね。それに患者さんにはもっと自身の体の治癒力を信じてもらいたいと思います。医者から手の施しようがないと言われると大概は治らないので…。そうではなくて、あなたの自己治癒力とか自己免疫力を高めて治しましょう、というのを研究していきたい。自己治癒力や自己免疫力を回復したり促進したりする手段が東洋医学には多いですから。

それと、やはり師匠のYNSAは素晴らしい技術なのですが、この技術が全国に行き渡っていないのは日本人の損失だと思うのでしっかりと伝えていきたいですね。海外では定評

のある技術なので特にそう感じます。日本発なのですけどね…。そういった日本鍼灸の素晴らしい技術をネパールとかの無医村や、世界でも鍼灸は求められていますから、鍼灸治療を届けたい。

小原：そういった仕組みができれば良いですね。

富田：ええ、日本の鍼灸治療はすごいですから。中国の鍼灸治療の良さもちろんあるのですが、僕の鍼灸治療は再現性が高い物ばかり集めているので。習得しやすいと思うのです。日本鍼灸と中国鍼灸の違いも大きいと思うんですよ。もちろん双方に良さはあるんですが、患者さんとの関わり方に大きな違いがあるんです。患者さんに対する共感であったりとか、繊細さであったりとかが中国鍼灸は少ないと感じます。

日本の鍼灸はツボひとつとっても、患者さんと交流するというか、細やかな技術であったり、思いやりであったりなど、相手への尊重が入っていると思います。腰をトントンと優しい鍼治療を施しつつ、この辺はどうですか？って尋ねながら施術するという…。優しさがありますよね。気持ちが伝わるんです。中国鍼灸はその辺りは大雑把というか大胆ですよ。患者さんへの思いやりなどが日本の経絡治療の根底にはあると思うんです。そういうものを普及させたいですね。

本山：いいですね。人の体に施す技術ですから、患者さんへの思いやりというのはとても大切にしなければなりませんね。

富田：あとは…うちの鍼灸院が儲かっていけば…(笑)。スタッフに給与をしっかりと払いたいですね。

小原：ははは、でもそれは大切なことですよ。社会に貢献する良い事業をしても、資金不足で続かないのであれば、返って社会に迷惑をかけてしまいます。両方求めているだけではいけませんよね。

富田：人としてというか、人類の発展のためというか、もしも天国で審判される時「お前、人々を救える技術を持ちながら、それをちゃんと伝えず何もしなかったな！自分だけ儲けて…。あと600回、生まれ変わって人生をやり直して来い」と言われるよりは、「確かに至らぬところはあったが、そこそこ頑張ったから、とりあえず通って良いよ」と言われたいんですよ。

小原：それいいですね。富田先生らしいです！

富田：自分だけ儲かるのは2番目の人生だと思うので、1番目の人生では人のために働きたい。患者さんに教えて貰った…救えなかった人たちから…多くのことを。だから、この世に生を受けているので、すこしでも社会に貢献して良い方向に変えていきたい。おこがましかもしれませんが。

本山：いえいえ、素晴らしいです。

小原：今日は、難病治療から東洋医学の可能性まで素晴らしいお話を伺いました。私達も良いものを積極的に取り入れ治療に役立てていかなければと思いました。ありがとうございました。

本山：そうですね。富田先生の鍼灸に対する真摯な姿勢に心打たれました。私も頑張らなくては…。ありがとうございました。

富田：いえいえ、こちらこそ、ありがとうございました。

.....

■ あけぼの漢方鍼灸院

〒557-0003 大阪府大阪市西成区天下茶屋 2-21-10 TEL：06-6659-5858
mail@ynsa-japan.com

■ 小原整骨院（本院）

〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX：086-444-9595
受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）

〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL：086-486-3363